

私達の未来を支える応援団

杉並区立松ノ木中学校 3年 園川 和奏

私は中学一年生のとき、「杉並区中学生小笠原自然体験交流事業」に参加しました。この事業は、杉並区の次世代育成基金を活用して実施されており、世界自然遺産である小笠原で貴重な自然体験と文化体験を通して成長する機会をくれるものです。

小笠原に到着した瞬間、私は目を奪われました。一面に広がる青く透き通った海、そこにしかない都會では味わえない自然の雄大さと、豊かな命の営みを目にしてただただ感動しました。その後の体験は忘れられません。シュノーケリングで出会った色とりどりの魚たち、ガイドさんの話す固有種や外来種の違いについて意見を伝え合った時間、現地の人々との交流を通して肌で感じた文化の深さや島の誇り。ほんの数日でも、自然と人とのつながりの意味を深く学ぶことができました。

このような体験ができたのは、すべて税金によって支えられる、次世代育成基金があったからこそです。私や、私と同じようにこの事業に参加した仲間達が無償で参加できたこと、交通費や宿泊費を気にせず思い切り現地で学べたこと、何よりこんなに貴重な経験をさせてもらえたのは、皆さんのおかげです。皆さんがしている納税で支えられました。もちろん、この経験だけでなく、普段の生活でも私達を支えてくれています。私達学生も税金で支えられているものが多くあります。でも、実際にその使い道が身近に見えづらいことがあると思います。私の場合は、小笠原の事業で税というものを身近に感じました。税のおかげだからこそ、私は税金は応援団という存在で、「税金が私達を支えてくれている」という実感が湧きました。

私はこの体験を通して、税金という一見みえづらい存在が、私達一人ひとりを支えてくれる大切な存在であることを実感し、税金がただの制度や仕組みではなく、私達の未来を支え、豊かな成長を応援してくれているのだと改めて気づかされました。

小笠原に行けると分かったとき、とても嬉しかったのと同時に感謝の気持ちがありました。小笠原という場所に行き、自然と向き合い、人と繋がる貴重な経験ができたからこそ、私はこれからも感謝を忘れず、未来に役立つ行動を続けていきたいと思いました。

私は今回の体験を通して、税金は単なるお金ではなく、私達の未来や社会全体の支えになっていることを学びました。普段何気なく利用しているもの多くが税によって成り立っています。これから社会を担う一人として、税の仕組みや使い道に关心を持つことが大切だと感じました。そして、私のような経験をたくさんの人にしてもらいたいと考えたので、誰かの未来を支えられるような社会づくりに貢献していきたいと思います。